

登録コード	T2006200	開講年度	2026			
授業科目	電子情報基礎実験(16T以降)				担当教員	富田 孝幸 他
英文授業名	Basical Experiment of Electrical and Computer Engineering				副担当	橋本 佳男
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	水曜・3時限 水曜・4時限 水曜・5時限	対象学生
講義室	工C3-200教室		授業形態	実験	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー	該当					
(1)授業の達成目標	【授業で得られる「学位授与の方針」要素】				【授業の達成目標】	
	2 5 Tカリ, 2 3 Tカリ					
	【22T～】共通教育による幅広い教養と、工学の専門分野における基礎学力が身についている。				工学分野の学修では、実際に装置を作成・操作する「実験」が必須である。そのために、電子情報システム工学科では、電気・通信・情報の全てのプログラムにおいて3年次の前後期に演習科目を履修することになる。	
	【22T～】専門的学力を基礎とし、的確な情報を収集・理解し、これを他の人に発信できる能力が身についている。				電子情報基礎実験は、全てのプログラムに共通となる基礎的な手法やその報告書の書き方について15週かけて学習する演習科目であり、専門性の高い3年次の演習で必要と基礎力を培うことにより良い報告書を執筆できるようになるためのものである。	
	【22T～】様々な課題を見つけ取り組む力が身についている。				考察においては実験により得られた知見をより発展させた論理展開が求められる。その中で課題の発見および探究する姿勢を培う。	
(2)授業で学べる「テーマ」	その他					
(3)全学横断特別教育プログラム						
(4)授業の概要	本科目は、報告書の書き方に関する講義・演習(2回)、6テーマの体験実験(12回)および総評(1回)により構成されており、電子情報システム工学科における基礎的な演習を中心にまとめている。 詳細は下記に示す。 =講義・演習= 0-1 報告書の書き方1(報告書、図、表のルール) 0-2 報告書の書き方2(正しい議論の方法) =体験実験= 1-1 電気素子の使い方 1-2 電流計・電圧計の使い方 2-1 デジタル回路入門実験1 2-2 デジタル回路入門実験2 3-1 電子回路入門実験1 3-2 電子回路入門実験2 4-1 マイコン制御実験1 4-2 マイコン制御実験2 5-1 ソフトウェア実験1 5-2 ソフトウェア実験2 各テーマを実施した後に、毎週の課題および隔週の報告書を執筆する。					
(5)授業計画	本科目は、複数名の教員、技術職員、TAによる指導体制をとる。 1～2週は、ガイダンスおよび報告書の書き方に関する講義・演習を行う 3～14週は、安全に実験するために、学生を6班に分けて5テーマの実験演習を実施する。 15週は、実験を通じた総評を行う。 『各テーマの内容は(2)の1から5に記載されたものである。』					
(6)成績評価の方法	成績は各テーマの報告書の内容と実験取り組み姿勢をもとに以下の方法で採点する。 ・100点を満点としてS(90-100点)、A(80-89点)、B(79-80点)、C(69-70点)、D(0-59点)の5段階にて評価する。 ・各テーマの報告書の採点はテーマ毎に行われ、6テーマの平均評価が60点未満の場合、D判定となり、単位は認められない。 ・原則として欠席や報告書の未提出があった場合はD判定となり、単位は認められない。					
(7)成績評価の基準	本科目では「全てのプログラムに共通となる『(1)基礎的な手法』や『(2)報告書の作成方法』を習得する。」といった目標達成を下記の項目にて測る。 (1) 6テーマの実験・演習の全てにおいて、積極的な参加姿勢 (1) 各テーマの課題(予習復習)の達成状況 (2) 報告書の構成、形式の習得 (2) 報告書における考察内容					
(8)事前事後学習の内容	実験演習を中心に据えた科目のため、周辺分野の知識を有することが求められる。 受講者は、これらの予備知識をテキストを参考に事前学習する必要がある。 テキストは事前に「eALPS」にて公開する。 また、実験後は報告書を書き上げて完了となる。 これらは、報告書に具に記載されることで、評価の対象となる。					

(9)履修上の注意	各演習テーマの担当ごとに異なるため、ガイダンス資料に記載する。
(10)質問,相談への対応	各演習テーマの担当ごとに異なるため、各テーマの資料に記載する。
(11)その他	
【教科書】	各テーマごとに独自に提供する。
【参考書】	